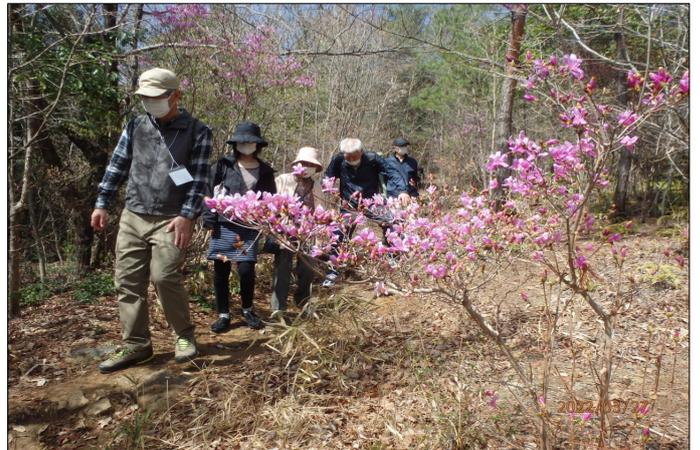


第3回「高森山でツツジを見よう会」、雨で1日順延 ツツジは3分咲き、でも春山歩きの楽しさ満開

雨のため開催が1日順延した、第3回「高森山でツツジを見よう会」が3月27日、高森山で開かれた＝写真。今回は、歩きやすい比較的短いコースに加え鞍部から頂上に向かう健脚コースを新設したが、順延の影響か、参加者は70人と昨年を下回った。

3月中旬の冷え込みで主役のコバノミツバツツジも開花が遅れ三分咲き程度とややさみしい姿だった。例年、薄紫のツツジと競うように咲く周囲のサクラもつぼみがやっと膨らんだ程度だった。それでも散策の足元に可憐なスミレが顔を出し、黄色のチョウが舞い、野鳥のさえずりが心地よく耳に飛び込むなど初春の山の魅力は十分。参加者は、ガイドの懇切丁寧な説明



にうなづきながら散策を楽しんだ。

恒例となった、草木の中に隠したオモチャの動物を探す「カモフラージュ」や山中で耳を澄ませて鳥のさえずりなどを聴く「音いくつ」のネーチャーゲームも好評だった。

役員会から

●「ツツジを見よう会」は、開催日が早すぎたのではないかと反省論が出た。しかし、去年は、ほぼ同時期だったが、コバノミツバツツジは盛りがやや過ぎたような咲き具合だった。花はその年の気候で開花の時期がズれる。難しい問題だが、来年は慎重に開催時期を検討することになった。●2月に予定していたコロナ感染の拡大で開催を中止した「どんぐりsカフェ」、豊田洋一中部大名誉教授が講師の「ブラブラまつりのススメ」を「東部ほっとステーション」で6月18日(土)に開くことを決めた。地域おこしのイベントとして、全国的に関心を集めている「まつり」で、提唱者の豊田さんにスタート時の苦心や成功の秘訣を聴く。さらに出店など「まつり」に参加した押沢台の方たちと参加者との質疑応答も予定している。(明賀 雄二)

2022年度定期総会のお知らせ

2022年度の「高蔵寺どんぐりs定期総会」を以下の要領で開催いたします。

- 日時；5月22日(日) 13:30~16:00
- 開催場所；東部市民センター
会員の皆様のご出席をお願いします

住まい困りごと無料相談

- 電話または直接面接会場にお越しください
☎080-5297-8956(長谷川)
面接相談会日；5月21日(土) 6月12日(日)
(いずれも13:30~16:00)
会場；東部ほっとステーション
(サンマルシェ南館1階)

ハート・ほっと・ルーム

- 日時；5月29日(日)、6月26日(日)
(いずれも13:30~17:00)
会場；東部ほっとステーション
参加費；無料
連絡先；☎090-6330-4393(浪川)

「魅力ある高森山公園をつくる会」総会 春夏秋冬の自然観察会を計画

部会「魅力ある高森山公園をつくる会」の第5回定期総会が3月26日、東部市民センターで開催された。まず、采女副代表から4年目の活動を振り返り、高森山の里山づくりが未来プランの実現に向けて着実に進んでいるとの報告がされた。会計について稲熊会計担当から報告。監査結果について改善の跡が見られ適切に処理されているとの高評価を得た。

新年度の方針について山口副代表から報告。「まちの里山づくり」のスローガンのもと、月例作業での熊手の常用、春夏秋冬の自然観察会

私の朝・昼・晩

漢詩の楽しみ方

市民サークル「漢詩を楽しむ会」に入り、月2回の講座を受講し、ほぼ、2年になる。中国の歴史や漢字が好きなこと、また、漢詩にたしなんでいた亡父の影響もあり、退職したら本格的に学んでみたかった。ただ、漢詩をつくるのは、簡単ではない。絶句、律詩ともに押韻、対句等を決まった場所に入れ、それに叶った漢字を使わなければならない。

伝来の著名な漢詩の大半が作られたのは、唐の時代であり、有名な天才李白は、約2千も作っている。既に日本で使わなくなった漢字が多いが、漢和辞典で検索し、その情景を思い浮かべるのは楽しい。著名な作者の中には、何故か人生にうまくいかず、不幸な境遇の中で作られたものが多い。過去に自分が挫折した境地と重なることもあり味わい深い。

中でも、柳宗元の「江雪」は、山水画の風景そのもので、悲哀を感じさせ胸を打つ。

「千山鳥飛ぶこと絶え、万径人蹤滅す。孤舟蓑笠の翁、独り寒江の雪に釣る」。どこにも人の足跡がないような所で一人寒空の中、釣り糸を垂れる己の境遇に万感の想いが募る作品である。一方、趣味の空手で、漢詩を吟じながら、節回しに合わせて「空手の形」を打つのも楽しい。凜と張りつめた気分となり、実に爽快である。(堀内 泰)

の実施等を説明した。堀内代表から新運営委員として市フォレストサポーター受講の石田友彦氏、高森山に詳しい近藤左千夫氏の推薦があった。新年度予算を含め全議案について満場一致で承認された。後半の意見交換では「見よう会」のハナモモの会との合同開催やウォークラリー開催の提案が出された。(山口 正恵)

楽農会も総会、環境保全を確認

第13回目生き生き楽農会定期総会が4月10日、東部市民センターで開催された。地主に返還した「くだもの畑」から移転した「おけら畑」で新たに野菜作りをする若い会員5名を含めて、他の三カ所の畑から22名が出席した。

前期活動報告と今期の活動方針の説明後、野菜作りについて、話し合った。講師の佐藤美保子さんが作成した野菜カレンダーを見ながら、苗や種の植え播き時がとても大事なことを学んだ。各野菜が好む土壌の酸性度、堆肥の有効な使い方、野菜作りに重宝な粃殻の調達先等を参加者は熱心にメモを取っていた。また、今期も美しい玉野を守る会に協力し、環境保全に努めることを確認しあった。(堀内 泰)

「どんぐりs」としてPS会議に加盟

「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」(通称：PS会議)は、春日井市環境政策課が事務局となり、2002年に市民・事業者・市の三者協働による環境まちづくりの推進を目的に設立。「どんぐりs」は、これまで部会の「生き生き楽農会」が加盟していたが、高森山の整備、幅広い環境活動などを進めるため、「高蔵寺どんぐりs」として加盟することにした。PS会議加入のメリットは、加盟者同士の交流による環境関連事業のノウハウ取得、環境整備活動への助成金(上限4万円)等がある。

4月16日、総合福祉センターでPS会議総会が市民17団体、事業者6社が参加して開催された。席上、新加盟団体として「どんぐりs」のプレゼンを行なった。パンフレットを配布し、パワーポイントで分かりやすく、環境整備事業など活動内容を説明した。(堀内 泰)